

「日中のCO₂焚き」で増収対策

R3.10
アグリ技研(株)

ビニール被覆後、ハウスの開閉を始めたなら炭酸ガス処理を「開始します。(11月上・中旬～) 施設の複合環境制御は

◎CO₂をただ供給するだけでなく ⇒温度・湿度・受光などの管理も必要となります。

1.CO₂稼働方法と循環方法

①「ハウス内の濃度を450ppmまで確保」 「理想濃度は800ppm ↑

稼働時間帯	CO ₂ 濃度	備考
午前9:00～9:30	450～500ppm	ハウスを開ける前後から稼働
～午後2:30	* コントローラ無の場合は、1時間に15分前後の稼働(400～450ppm)	
	* コントローラ有の場合は、設定濃度は400～450ppm	

* CO₂は、ハウスの換気(開ける)をしてからも稼働する。

* 晴天日や曇天日(必要)は必ず稼働する。

②CO₂循環方法

ハウス内のCO₂濃度を均一にしなければ効果もムラとなる。

(1)循環扇の利用

(2)加温機ダクトに連動(送風のみ)

* CO₂を稼働する時の換気扇による温度管理は控える(CO₂のロス)

2.温度・湿度・光 (複合環境制御)

飽差(3～6)気孔を広げる数値

温・湿度	75%	80%	85%
25℃	5.5	4.4	3.5
28℃	6.7	5.3	4
30℃	7.6	6	4.5

* 晴天日などで、炭酸ガスを吸収した場合などは
努めて日没3時間程は20℃前後まで温度を上げる。
その後は、5～6℃を早朝まで維持する。

* ハウスを一度に開けると気温低下で湿度も乾燥
するために気孔は閉じてCO₂の効果も抑制される。

①温度、湿度管理は、温度計や湿度計を見ながら適正に行う。 **前夜温を18～20℃確保**

②適正な湿度管理は、極端な開閉をしないことです。

③内カーテンは、晴天日には開けて受光を良くする(葉の裏に乱反射で効果)

3.肥培管理(肥料・水)

①効果の発現とともに生育も順調と成る為に肥料(液肥など)は2～3割増す。

②生育促進になると水管理も通常より少量多回数灌水とする。

③厳寒期には、チップバーンなども出やすくなるのでカル元氣(カルシウム)を施用する。